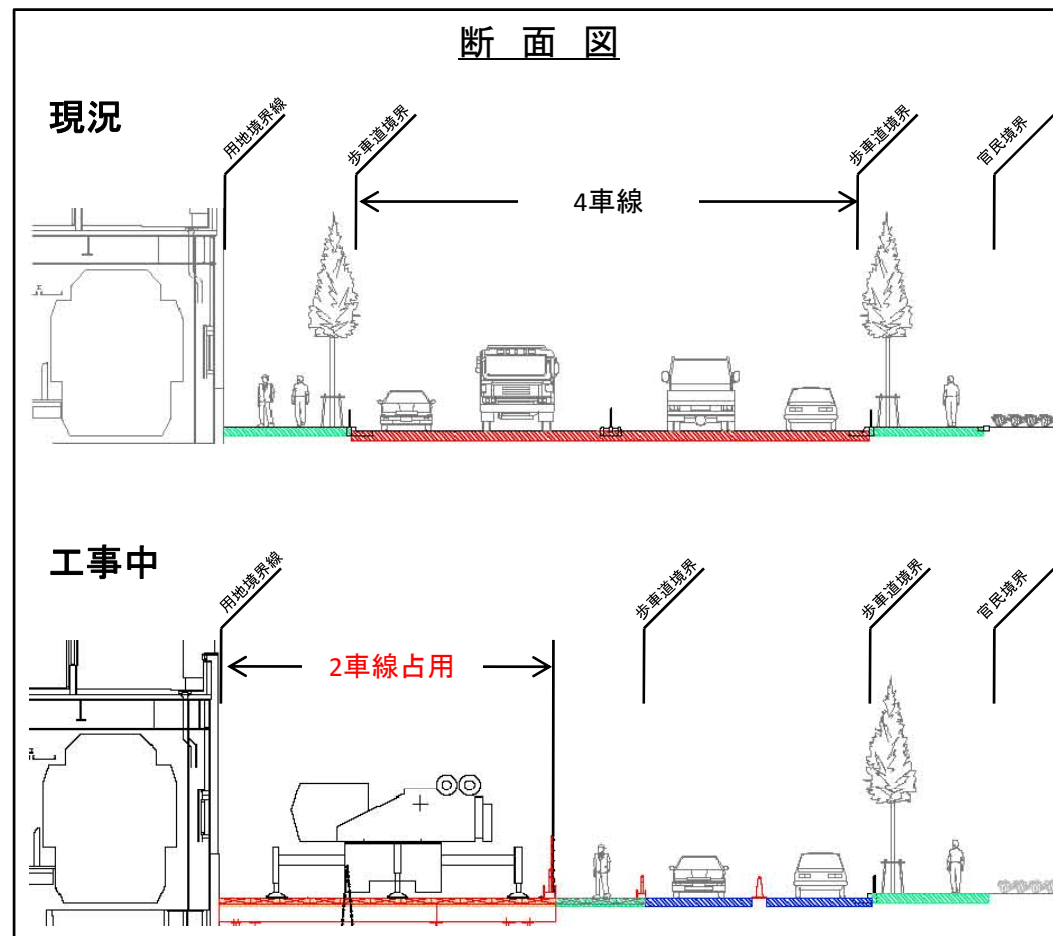
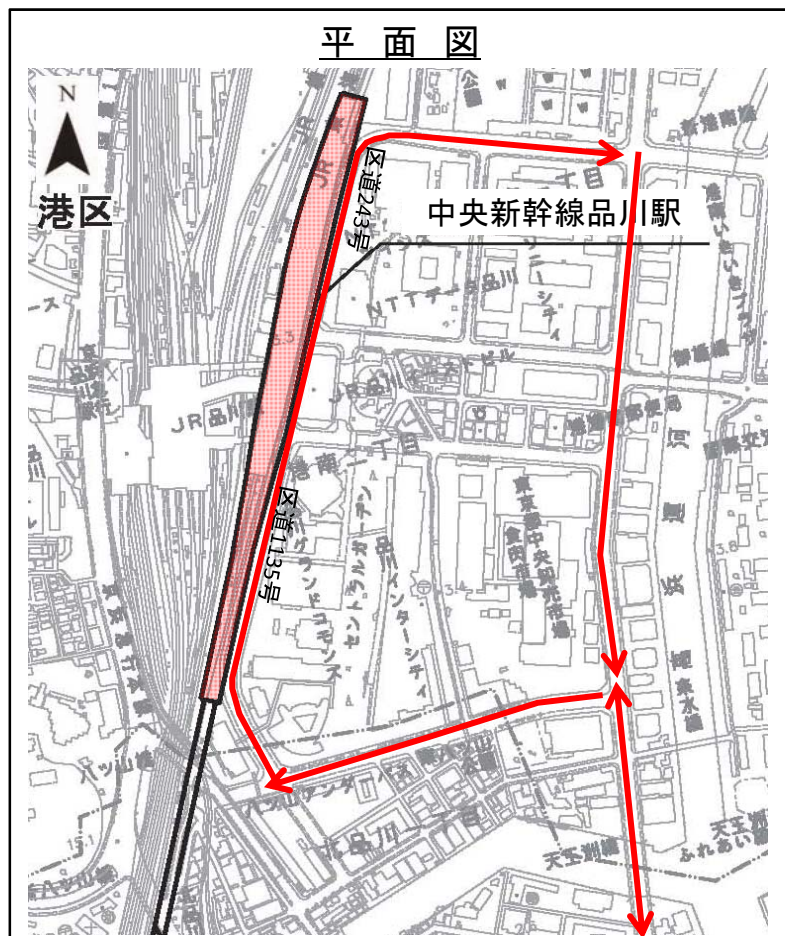


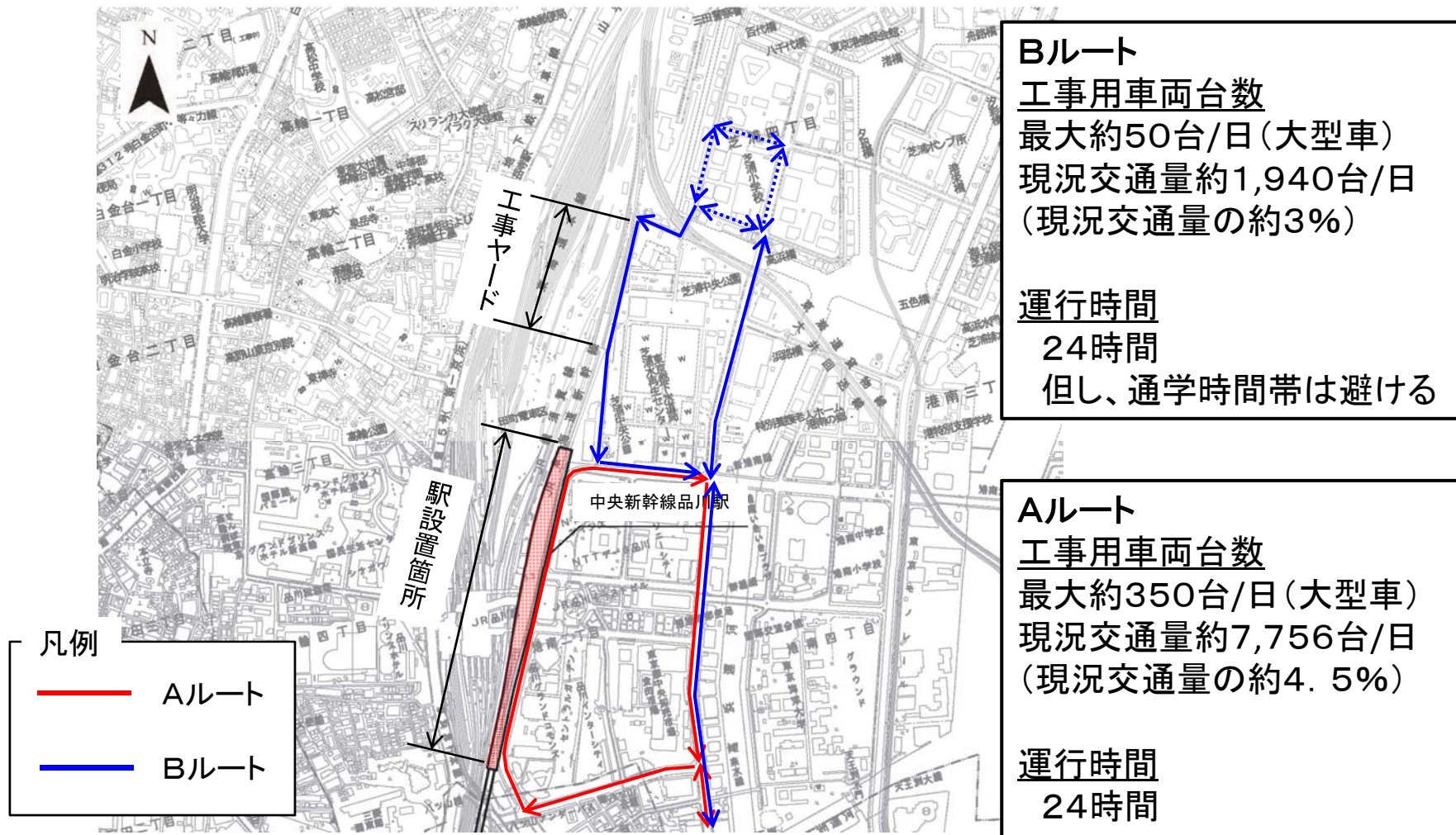
品川駅周辺において、工事中、工事用車両が区道上に滞留することはありませんか。

- 工事用車両のルートは区道を一方通行で計画しております。
- 港区道については4車線ある車道のうち、2車線を工事用に占用し工事を進める計画であり、工事用車両はその占用範囲内に速やかに進入するため、区道上で工事用車両が滞留することはありません。



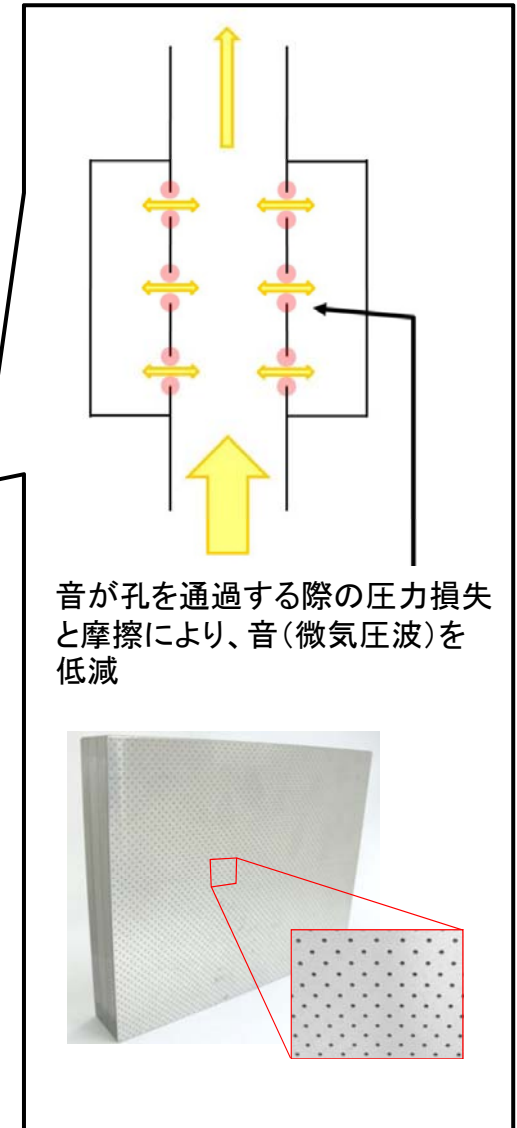
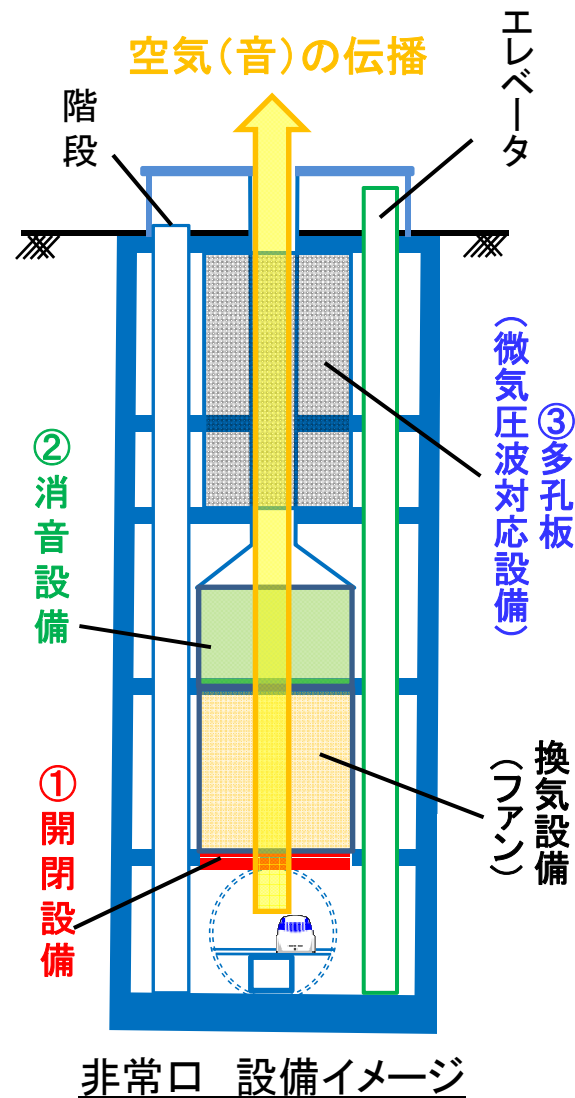
## 工事車両はどの程度通るのですか。

- 工事車両の台数については、工事最盛期の最大値であり、これだけの工事車両が通る期間は限られます。また、特定の時間に工事車両が集中するのを防ぐ等の環境保全措置を講じていく考えです。



非常口周辺で騒音、低周波音、微気圧波の影響はないのですか。

- 非常口周辺における列車の走行に係る騒音については、列車が通過する前に①開閉設備を遮断状態とするため、影響はありません。
- 換気設備の稼働による低周波音については、②消音設備により低減できるため、非常口周辺において影響はありません。
- 列車の接近による微気圧波については、③多孔板(微気圧波対応設備)により低減されるため、影響はありません。



洗足池は、近くに非常口ができることで影響はないのですか。

- 三次元浸透流解析(三次元地下水流動モデル:UNSAF)による非常口周辺の地下水位の変動量は、下図に示す範囲に限られ、上昇、低下共に最大でも10cm未満にとどまります。それ以外の範囲では地下水位の変動はありません。



自然由来の重金属等が見つっていますが、どのように処理するのですか。

- 東京都の地下土壌には沖積層を中心に、自然由来の重金属等が含まれていることが知られており、過去の地下鉄や高速道路等の工事においても基準を超える自然由来の重金属等を含む発生土が出ています。
- 評価書(本編8-3-3土壌汚染)にも記載している通り、事前調査した7か所のうち6か所でヒ素、フッ素、鉛、セレンの土壌溶出量が指定基準に適合していないことが確認されています。
- こうした事前調査の結果等を踏まえて、工事中には発生土に含まれる自然由来の重金属等の調査を定期的を実施します。
- 指定基準に適合しない発生土及び酸性化のおそれのある発生土は、シート覆い、地盤への浸透防止シートの敷設など適切な管理を行うとともに、関連法令等に基づき、処理、処分します。
- また、発生土から自然由来の重金属等を除去する様々な技術が開発されてきており、そうした技術の活用についても検討していきます。